

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内いたします。

当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬 白

記

■ 実施日 平成 23 年 10 月 3 日（月）ご依頼分より

■ 新規項目

検査項目	● 抗ミュラー管ホルモン（AMH）
------	-------------------

■ 新規項目内容一覧

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容 器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
6394 1	抗ミュラー管 ホルモン（AMH）	血清 0.5	↓ X	冷蔵 (28日)	3~5		ELISA	(ng/mL)	

● 抗ミュラー管ホルモン（AMH）

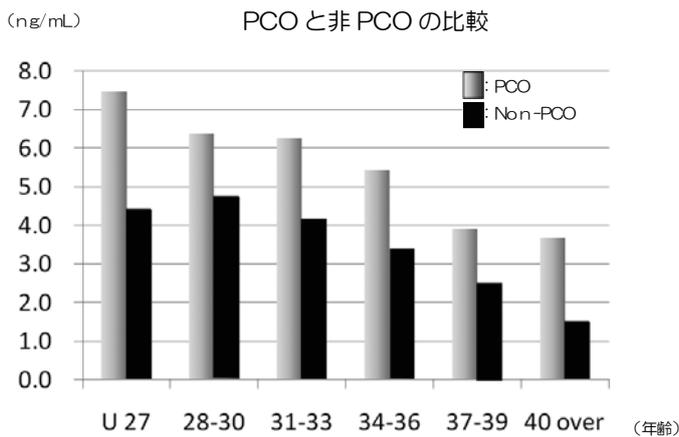
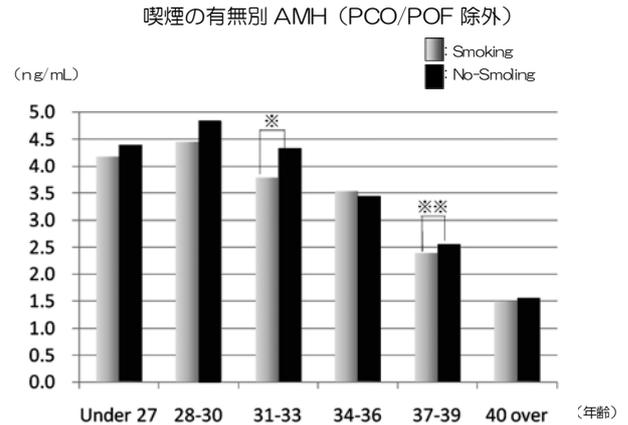
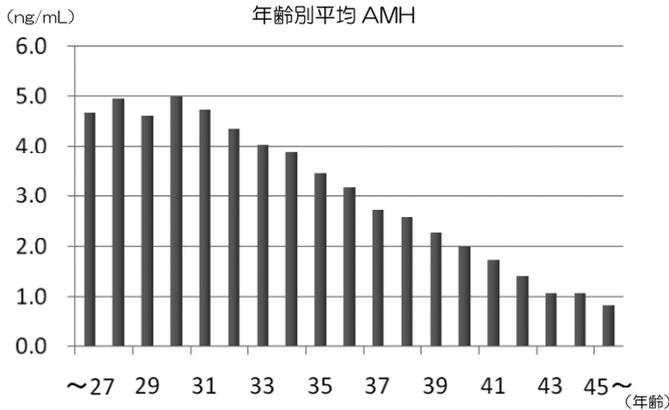
卵巣予備機能の指標として、その有用性が注目されています。

抗ミュラー管ホルモン（anti-Müllerian hormone：AMH）は、女性において原始卵胞から発育する前胞状卵胞から産生され、加齢に伴い下降傾向を示すホルモンです。性周期の影響を受けにくく、発育細胞数と相関することから、卵巣の予備機能の指標として注目されています。

また、疾患との関連では多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）において高値となることが知られています。

女性の社会生活の多様な変化に伴い、卵巣の予備機能の評価は、婦人科領域での重要性を増しております。加齢に伴い卵巣機能は低下しますが、個人差があるため、個人の卵巣予備能に適した治療法の選択や治療計画のために、抗ミュラー管ホルモン（AMH）が大きな役割を果たすと期待されています。

▼参考資料（JISART より）



▼疾患との関連

- 多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）

▼関連する主な検査項目

- 黄体形成ホルモン（LH）
- 卵胞刺激ホルモン（FSH）

▼検査要項

検査項目名	抗ミュラー管ホルモン（AMH）
項目コード No.	6394 1
検体量	血清 0.5 mL
容器	→X（ポリスピッツ）
保存方法	冷蔵保存してください。
保存安定性	冷蔵保存で28日間
所要日数	3～5日
検査方法	ELISA
基準値（単位）	未設定（ng/mL）
実施料・判断料	未収載
備考	

●参考文献

kumar A., et al : Journal of immunological methods 362(1~2) : 51~59, 2010. (検査方法参考文献)

岩瀬 明 : 日本産科婦人科学会雑誌 61 (9) 330~334, 2009.

★お詫び 上記文章におきまして次の適切な語句に改め、「全胞状細胞」→「前胞状卵胞」に訂正させていただきます。